

# 経済統計 練習問題

## 第12回 家計に関する統計(2)

2008年11月18日

問 以下の文章を完成させよ。

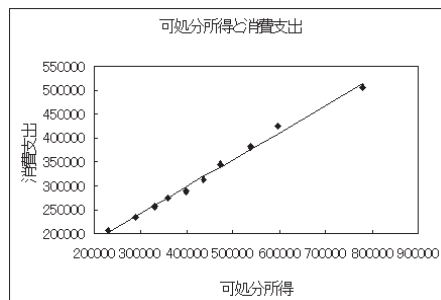
家計調査のデータを用いて、

$$Y(\text{消費}) = a + bX(\text{所得})$$

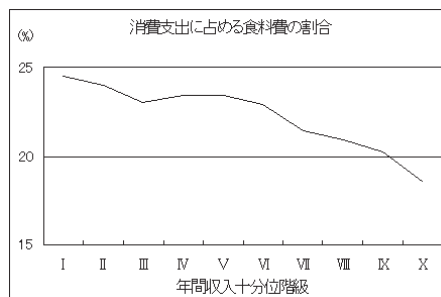
というケインズ型消費関数を推定することができる。

この消費関数は {(a) 消費 (b) 所得} を原因、 {(a) 消費 (b) 所得} を結果とする因果関係を数式で表したものであり、係数  $b$  は \_\_\_\_\_ といわれる。

下の図は、年間収入十分位階級のデータ(平成19年平均、全国2人以上世帯のうち勤労者世帯)を用い、ケインズ型消費関数を推計したもので、 $Y = 73071 + 0.566X$  となる。よって、平均的な家計に1万円の臨時収入があった場合、 円が消費にまわされるといえる。



下の図は食料費が消費支出に占める割合を、年間収入十分位階級のデータ(平成19年平均、全国2人以上世帯のうち勤労者世帯)を用いて描いたものである。



この図を見ると、所得が高くなるほど、食料費の消費支出に占める割合(これを \_\_\_\_\_ という)が低くなるという、\_\_\_\_\_ の法則が {(a) 成り立っている (b) 成り立っていない} ことがわかる。

また、グラフが右下がりの費目は {(a) 必需品 (b) ぜいたく品} と分類される。